

## 読書活動



### ～ 家庭における読書のすすめ ～

平成24年2月



読書は、子どもに想像力や考える力を身に付けさせ、豊かな感性や情操・思いやりの心を育みます。

近年、子ども読書の重要性についての認識が高まり、子どもの読書量は増加の傾向にあります。しかし、中学・高校と学年が進むにつれ読書量が減り、高校生は1ヶ月間本を1冊も読まない割合が51%であるとの調査結果も報告され、読書習慣の定着が今後の課題となっています。(H23年度第57回読書調査 全国学校図書館協議会調べ)

子どもの頃に身についた読書習慣は、生涯にわたり子どもたちの健やかな成長を助ける糧となります。

子どもたちに確かな読書習慣を身に付けさせる上で、家庭における読書活動は、とても大切です。



家庭においては、子どもが日常生活の中で自然と読書に親しむことができるよう環境を整備していくことが重要です。

今回は、継続した読書活動を行うために、保護者に配慮していただくポイントを紹介します。



#### ① 読み聞かせ等、本を媒介とした家族の触れ合いの時間を持ちましょう。

読み聞かせは、子どもたちがお話の楽しさを感じるひとつの方法です。大きくなって文字を読むことができるようになってからも、子どもたちは大人から読んでもらうことが大好きです。

テレビやゲームといった映像メディアを消して、双方向性のある読み聞かせを家族で楽しんでみませんか？ 子どもへの読み聞かせは、家族のコミュニケーションや絆を深める機会ともなります。

食事の後、お風呂上がり、寝る前など、負担無く気軽にできる時間をさがしてみましょう。



#### ② 大人が本に親しみましょう。

大人が本を良く読む家庭では、子どもも自然と本に親しむようになります。

家庭の中で、「特別」にではなく、「日常的」に読書活動を行うためには、まず、保護者が本に対して、興味・関心を持ち、本を読むことが有効です。大人が本に親しむ時間を作り出し、家庭の中で本を読むことの楽しさを子どもに伝えましょう。





### ③ 家族みんなで図書館に出かけてみませんか。

市町村には、図書館、公民館、児童館、民間の地域家庭文庫等、本に触れることのできる場所がいろいろとあります。中でも図書館は様々なジャンルの本がそろっており、また、読書に関するイベント等も開催されるなど、地域における読書活動の拠点です。

保護者の方が子どもの頃に見たり読んだりした本を、子どもに薦めてみましょう。家族で図書館に出かけることで、子どもたちはやがて、自分で本を借りたり、調べ物ができるようになったりします。地域の図書館と子どもたちの橋渡しをしましょう。

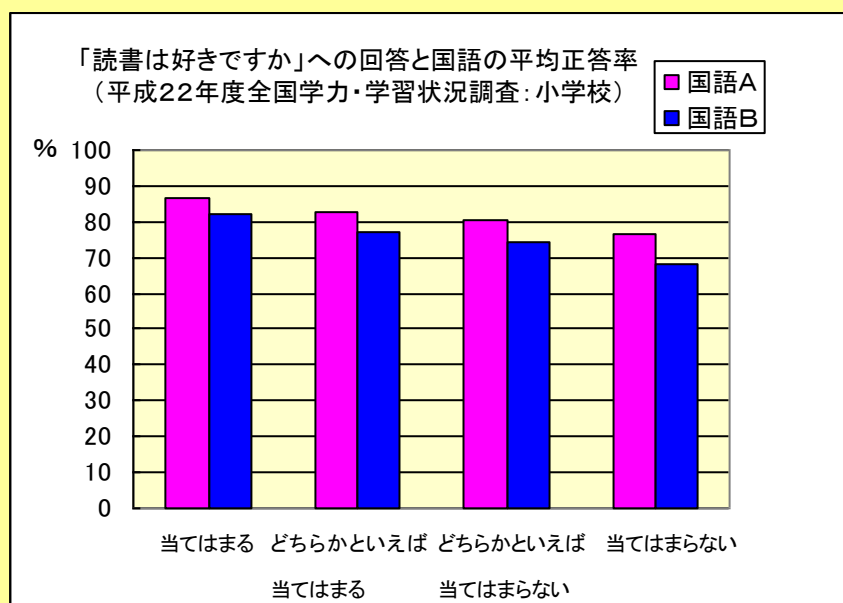


### ④ 読書に関する情報を役立てましょう。

子どもの興味・関心に沿った本や長年読み継がれている本を子どもに手渡すことは、大人にとってとても重要な役割です。子どもが自分で本を選ぶことも大切ですが、その時期がくるまでは、読書に関する様々な情報を役立てて、子どもの読書の世界を広げる手助けをしましょう。

「子どもの読書の情報館」(文部科学省) <http://www.kodomodokusyo.go.jp/>

#### トピック：読書がはぐくむもの



※国語A：主として「知識」に関する問題  
国語B：主として「活用」に関する問題

「平成22年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)」の調査結果によると、読書が好きな児童生徒の方が、小学校でも中学校でも国語と算数・数学の平均正答数が高い傾向が見られました。

また、「子どもの自尊感情と生活のあり方との関係についての研究」(福岡県青少年アンビシャス運動特別レポート 平成22年3月)によると、1ヶ月に5冊以上本を読む小学生は自尊感情が高い傾向にあるということが報告されています。

#### 「福岡県子ども読書推進計画」(改訂版：平成22年3月)

福岡県では、平成22年3月に、より効果的な子どもの読書活動を推進するために、「福岡県子ども読書推進計画」の改訂を行いました。また、本年度から「小学生読書リーダー活動推進事業」を実施し、読書活動の充実にむけた取組を県内各地で行っています。

福岡県教育庁教育企画部企画調整課 教育力向上対策室 TEL 092-643-3882  
教育力向上福岡県民運動ホームページ <http://www.fukuoka-kenminundou.jp>

※ このリーフレットは、上記ホームページからダウンロードできます。そのまま印刷して配布、学校(園)・学年だよりやホームページ等に一部抜粋・引用して配布、学級懇談会等資料として配布するなどして有効に活用してください。